

人と自然とのかかわりを通し

子どもが「生きる力」を発揮する学習活動の創造

<1年次>

運動ブロック

1年2組 授業者 田宮 泉先生

単元名…どうぶつランドヘレッツゴー

体育科 表現リズム遊び

(1)自評

- ・ 「楽しさをたっぷり味わわせたい」というねらいから、2つの活動を組んだ。
- ・ 1年生ということもあり、教師主導になったところが多かった。もっと任せられると良かったが。
- ・ 海や草原という場面ではなく、動き（スピード・のんびりなど）の種類でランドを分けたが、効果的だったのか。
- ・ 2人組のペアの活動で人の体温を感じとらせたかった。「だるまさんがくっついた」では、つぶやきが少なかった。これから、広がりを持たせていきたい。
- ・ 評価に関して…自己評価ができないので、カードは使わなかった。ビデオにとって、一人ひとりを見たい。リズムの評価、表現の評価、3つをいっしょにした。

(2)話し合い

- ・ 指導案にある目標の「よい動き」とは。
→友達がひと工夫したところと考えている。
- ・ 指導案の形式はどのように提案しているのか。目標がたくさんあって、迷ってしまうのでないか。単元の目標・計画の目標・本時の目標のつながりが見えると、指導しやすいのでないか。
- ・ 体育の研究は、教材を子どもの側からみやすい。その利点を生かし、子どもがやりたいと思っていることが指導案の中に表れるといい。
- ・ 体育は、今もっている力で十分に楽しむ。その上で、工夫をさせていくのがいい。工夫は道具の工夫とか（リングなどの障害物を置くなど）
- ・ 子どもがくいついてきたものを十分やらせる。良い動きでなくても。
 - ①子どもがなにをやりたいかをつかむ。
 - ②できることを十分に楽しむ。
 - ③その上に、工夫を加える。子どもからみた運動の特性を十分に知る。
- ・ 呼子について…ウッドブロックやタンバリンを使ったかったが。
一時間ずっと笛ではなく、リズムとかに合わせて楽器を用いる。笛はバスケ。
- ・ 集中させる工夫がすばらしかった。「静かに」といわないで、手をたたいたり、姿勢を整わせたりしていた。

- ・ いい動きをさせたいから、いちいち集めて指導したくなるが、子どもたちが動く時間を十分に取っていくことが大切。
- ・ 動きにねらいを絞ったランドが、工夫されていてよかった。ペアを組んで、いろんな動きが見られた。子どものいい面をいっぱい引き出していた。
- ・ AさんとBさんについて・・・Aさんは運動能力もあるので、カードを見ての動きにすごく意欲的だった。カードの出し方にも工夫があった。毎回、新しい動物を提示していた。Bさんは、人と交わるのが苦手だが、くっつくことをいやがらなかった。周りのみんなにひっぱられて、動くことができた。
- ・ すごい運動量でした。関わりという点でも工夫があった。音楽に合わせた動きも、ストップで思い思いにしている良かった。いろんな動きを取り上げ、広がりが見えた。ランドを回る約束事もあっただろうが、子どもの思いを優先させてやらせていた。
- ・ 教師の指示がしっかりしていた。動きの質を変える工夫が良かった。
- ・ 高学年になると、身体的な接触を嫌う傾向にあるが、1年生は男女の差がなくくっつきあっていた。いつごろから、接触を嫌うようになるのか。
- ・ 村松先生の指導案もすばらしかった。専門用語がたくさん使われていた。
- ・ 2年生になると、時間の経過を表現する活動になる。風船が膨らんで割れるなど。今回の経験が2年生に生きてくる。
- ・ コブラ、ザリガニなどふだんではできそうもないものを子どもたちはよく想像してやっていた。
- ・ 表現運動は、「なりきる」ことがおもしろい。結局、教師はなりきるためのくふうをしていることになる。1,2年は十分に動く。3年以上は工夫、良い動きと高めていく。
- ・ 表現運動は、運動能力の低い子もみんな同じレベルでできるよいもの。だから、大切にしていきたい。
- ・ 運動の研究のためには、必要な用具を考えそろえることも大事だ。口をつけなくても良い、手で動かす呼子など。

□その他・・・ソフトバレーは主流ではない。今年教育課程でも、ソフトボールやサッカーをやったうえでなら、ということ。ソフトバレーの研究授業が多く実施されたときがあったが。

<田宮 泉先生の授業から見てきたこと>

- 1 ねらいが明確になっていると、体を動かすことを「楽しめる」。
- 2 表現活動で楽しむ要素として、「まねっこ」がある。この活動は、二人組のかかわりを育む上で有効である。「二人の動きをつなげたり、まねたりすることでお互いに動きを調整するコミュニケーション」と田宮先生は記述している。これは、友達同士の日頃の距離の置き方や摩擦を解消するときにも、影響してくるように思う。
- 3 研究の仮説に迫るための手立てが、子どもたちに無理なく浸透していた。
- 4 1年生の授業を成立させるためには、子どもを集中させる技術と確かな授業展^開の両方が必要だとわかった。
- 5 表現運動の際は、呼子よりは楽器がふさわしい。「運動の特性に合った道具」を吟味することも重要であることがわかった。